他者の表情が対象者の印象評定に与える効果
～性差についての検証～

1220446　川那辺　万由
指導教員　日道俊之

研究背景

対人関係において容姿、表情等視覚から受け取る印象の情報は大きい。酒井・相川 (2019) では印象評定を左右する要因として、周囲の他者の表情に着目した。しかし、この研究において, 印象評定対象者の性別が女性の時しか検証を行っていない。周囲の他者の表情による印象形成の違いについて、より詳細に検証するため、評定者だけでなく評定対象者の性別も考慮して検証を行う余地がある。

研究目的

評定対象者、評定者の性別を考慮することにより, 他者の表情が初対面の相手の印象形成に及ぼす効果に違いがみられるかどうか検証を行った。

調査・分析方法

印象評定に使用する尺度 7 つは先行研究と同じものを使用し、ウェブ調査を行った。印象評定対象者として真顔表情の男女の画像を用い、その周囲に男女二人の嫌悪表情、喜び表情を用意した。評定対象者の周囲に 1 人の表情のみが呈示される条件, 2 人の表情が呈示される条件を設け, 人数の効果も検討した。

分析結果

7 つの印象評定項目について探索的因子分析を行い、結果に従い「好意度」と「快活度」の 2 因子を抽出した。男性が女性を評定したときで周囲の他者が笑顔表情のときのみ、周囲の他者を配置していないときとしているときの評定の違いが表れなかった。また、嫌悪表情の他者が周囲に配置された女性を女性が評定したとき、快活度評定において、周囲の他者がいる条件のほうが評定対象者の評価を低く評定した。

考察・結論

本研究の結果から、評定者を男性女性、評定対象者を男性女性で考慮することで、印象評定による性差が認められる結果となった。男性が女性を評定したとき笑顔表情においては人数条件による差が出ないということが分かったが、その具体的な要因などは解明されていない。よって、今後は男性の印象評定においての着目点や特徴などの研究を行う余地がある。